きょうと福祉倶楽部だより

2018年 3号

認知症を患う利用者さんの力から学ぶ
ー主役は介護職員ではありません パート2

先月号Oさんの支援の続きです…

包括支援センター主催の書道教室の講師の依頼を1ヶ月前にうけました。

その日からお家に訪問する介護ヘルパーに、
「講師の依頼を受けて大変だ～」
「お手本を用意しないと～」
「次は20日だよ～」
と困った、困った大変だと言いながら楽しそうにニコニコして話をしてくれ、ご自宅に訪問している介護ヘルパーの記録にはその様子が記録されていました。

肝心の服薬やお食事はすぐに忘れてしまうのですが…書道教室の講師の日までの一ヶ月は毎日とっても楽しそうでした。

そんなこんなで書道教室当日です。
朝お迎えに訪問すると「お手本はあるか？」
「何時からですか？」とソワソワ。

ヘルパーにもうれしさが伝わります。落ち着かないので早めに会場の元しストラン『すずかげ』に※ガイドヘルパーの私と一緒に向かいました。

『すずかげ』に着くと認知症でいつも不安気な表情は一転し、自分で手本を生徒さんの机にセットし生徒さんを待ち、生徒さんが集まり教室の始まる時間になるときちんと皆さんに挨拶されました。生徒さんが書き始めると優しい表情で見つめ、生徒一人一人の机を回り指導されていました。
生徒が持ってきた書を朱墨で直したり、「とても上手です」と言ってOを付けたりしておられました。とても穏やかな表情をされ、私も嬉しくなりました。
生徒さんも「週1回で教えて欲しい」と喜んでおられ、Oさんも「次回はいつですか？」「自宅でも教室をしたい」とはりきっておられました。

いつもは認知症のために今言ったことすぐ忘れたり、なにもわからなくて混乱されていることが多いOさんですが、今日のOさんは、しっかりした優しい先生でした。
支援者として参加したヘルパーの私もOさんに書道を教えてもらいとても楽しい時間を過ごすことができとても感謝です。

※ガイドヘルパーとは障がい持つ方が
文化教養活動に利用できるサービスです